

連載

株式評論家 山本伸一の

兜町スタンダード



■ 買い難い時こそ、買える株もある！

先月後半からの米国追加緩和期待を軸とする相場復調も一服。先週発表の米雇用統計軟化も重しとなり、株価指数は再び下値志向を強める動きを見せている。

このところの米経済指標の軟化は、金融当局の追加緩和を促す材料ともなり、米国市場にとって追い風となるものの、流動性向上によるドル安志向とともに円高バイアスも強まることで、東京市場にとっては先行きの判断も分かれるところ。日程もメジャーSQ算出、シルバーウィーク、20日から2日開催となるFOMCまでは波乱含みで、まさに「買い難い相場」という表現が適当だろう。

外部要因の影響を受けやすい中核銘柄には厭戦ムードが高まっているが、参加者限定で賑わう銘柄群には活発な資金循環が確認できる。買い難い相場でこそ値上がり率ランキングの上位に浮上する「低位材料株」や「バイオ関連」といったタイプだろう。

そこで弊社では、軟調な全体相場に反して、活発な資金循環を見せる「低位材料株」や「バイオ関連」を対象とした「厳選5銘柄付き緊急市況レポート」を発売する。同じく「買い難い相場」となった春季にも投入し、好結果を残した実績テーマでもある。厳選銘柄やレポートに興味を持たれた方は、弊社に直接問い合わせしてほしい。